



どうだんっっじ

満天星

第10号 令和3年1月25日



QRコード
智頭小学校ホーム
ページへアクセス

自分で考え、決め、相談しながら進んで行動する

校長 氏橋 俊司

令和3年（2021年）がスタートしました。ご家族、そして地域の皆さま、本年もどうぞよろしくお願いいたします。近年にない記録的な寒波に見舞われ、児童の登下校が心配された年初めも、皆さまの除雪等のご支援で乗り切ることができました。まだまだ寒い日が続きますが、登下校の安全確保はもとより、感染症対策などにもご配慮いただきますよう重ねてお願い申し上げます。学校におきましても、換気、手洗い、マスク着用などに取り組み、充実した3学期となるよう努めて参ります。

本校では毎月上旬に一堂に会した全校集会を行い、校長や担当者から児童にいろいろな投げかけをしています。本年度も「挨拶」「節目」「チーム」「凡事徹底」等々、その時期に合わせたテーマで話してきました。そのような中、今月初めの始業式（感染症対策のためリモートで実施）は、「未来の日本」というテーマにしました。未来はどうなるのだろうかというワクワク感をもっていた自らの少年期を思い返し、50年前の日本人が考えた予想図（図書資料）から夢が実現しているものとしていないものを考えてみました。例えば、「服のポケットに入る電話ができる」という予想。「1分間熱を加えたら食事の準備ができる」という予想。「台風の進む方向を操縦できる」という予想など、当時の人々が考えた未来の日本の話を、児童は興味津々で聞いていました。

あれから半世紀。当時のたくさんの予想が“的中”し、実現しました。そして、その背景にあるものは、人類の「あきらめない心」であり「失敗しても努力を繰り返す姿勢」であったはずで。また強い夢や希望、願いがあったことも児童には感じさせたいことでした。しかし、これから先の50年はいったいどうなるのだろうかと考えたとき、まさに混沌としていて予想がしにくいように感じます。その中で生きていく、次代を担う児童に何をメッセージとして送ろうかと考えました。悩んだあげくに決めたことは、上のタイトルに書いたことでした。おそらく人工知能（AI）が人間の生活のかなりの部分を占め、人間が「考える」という作業も限定的なものになるかもしれません。また、気づいたらコンピュータが全てをやってしまう便利さですが、主体性の失われた世界になるかもしれません。そこで、もっと自分自身の可能性を信じて、すべて周りの人に決めてもらわないで、自分自身を大事に考えよう、自分の考えをもっと見つめようということを今回の重点内容としました。また、身勝手な判断や行動にならぬよう、周りの人とのコミュニケーションや協働という視点も、将来にわたり欠かせない大事なこととして伝えました。

ところで、ご家族や地域の方々からご覧になって、智頭小学校の児童は自分自身で責任を感じながら、判断したり、決めたり、行動したりすることができているでしょうか。主体的に周りの人々と関わり合っているでしょうか。日々児童は実に多くの方々に見守られ、大切にされ、健全に育っています。人の温かみも感じながらよい経験を積み重ねています。たいへんありがたいことです。だからこそ、将来を見据え、児童にとってこれから必要な「生きる力」を育てるには・・・と皆さまとともに考えていきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

